がんばろう末崎！
津波なんかに負けない！

館報まっさき

第２４８号
平成２７年７月２１日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（Ｆ兼）29-2955

末崎の風土散策　（３７）
～箱根山と豊漁龍神等について～　　その２

由来書
箱根山豊漁龍神は大正十三年十二月
中野部落 滝田東末作 滝田喜右衛門
両氏並に北中組念佛講中が施主となり
新沼左右衛門 滝田米三郎 近藤 達
浅野軍治の諸氏が世話人となり建立
したものであり社殿は昭和四年旧九月
紀室伊勢治 浅野軍治 新沼左右衛門の
諸氏が発起人となり村内より寄付を募り
建築したものであるが老朽著しいので
この度平部落が主となり町内外よりの
寄付を仰ぎ御神体並に社殿の再建を
したものである
昭和六十一年十月
箱根山神社再建委員長
平野暢長

箱根山豊漁竜神社内の由来書

滝田留作については村誌の「出征軍人」の項に、細浦出身、明治１０年西南の役に近衛歩兵一等卒で従軍、勲八等の勲功賞を頂いている。また伝説「箱根山と大蛇」の項には、北海道在住、本村出身で元軍人の滝田留作と書いてあり、神社内の由来書に書いてある東末作、「とみさく」は村誌の滝田留作「とめさく」の誤りとも考えられるので、確認のため中野周辺の古老や滝田姓の方達を尋ね回ったが、やはり知っている方はおらず不明であった。

中峰の頂きは広い草原であり、過去に旱魃があった際には何度も雨乞いが行われた所で、今でも子供達が自由に遊べる場所である。南端には高さ１ｍ程の恵比寿様と大黒様の石像が鎮座しており、七福神の豊漁豊作の神様でその視線の注いだ方向に参拝祈願の恩恵が大きくあると伝えられ、重い石像を３～４人互いに力を合わせて回す風習がある。末崎の人達が参拝すると末崎向きに、小友の人達が参拝すると小友向きに変えたもので、私も子供の頃大人達と回した覚えがある。この石像は末崎の人達が建てたものと思っていたが、調べたら小友村三日市の山田石材店の方で、恵比寿様は山田春吉（６５歳）、大黒様は山田治助（４２歳）の親子で明治３０年頃に建立したと考えられる。

箱根山の恵比寿大黒の石像

西峰は３峰のうちで最も高く、無線中継塔の南上に446.8ｍの三角柱が建っている。この三角点が末崎、小友、米崎の分岐点である。（聖）

細浦湾口防潮堤具体案提示

岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センターは細浦地区住民・小細浦地域住民に対し７月９日、ふるさとセンターで防潮堤について説明会を開いた。

特に、関心の高い細浦湾口防潮堤については、水門部を起伏フラップゲート式にする具体案が示された。

起伏フラップゲート式というのは、海の底に扉を伏せておいて津波が襲来すると予想される場合には、扉体内に空気を送り込み、係留フックをはずし、浮力により扉を海面まで浮上起立させ、押し寄せる波の力により扉を完全に立ち上がらせて湾口をふさぎ、湾内への津波の浸入を防ぐ構造のものである。設計案は湾口の幅（扉部分の幅）32ｍとし、水深3.6ｍのところに扉を設置するものである。操作方法は遠隔操作システムで行う。これは、全国瞬時警報システムによる緊急信号を受け、統制局（県庁、釜石合庁）が衛星回線を用いて、全県の対象施設を自動で一斉閉鎖するものである。

かつて、細浦湾をぐるりと回す防潮堤と河口でも見られるような水門、即ち細浦湾口に支柱を立て扉を吊り上げておいて、津波襲来時扉を下げて津波の浸入を防ぐ水門式にする案が提示された。それらについて各地域公民館でそれぞれ説明会を行い賛否を問うたところ、各地域とも現在の土地の利用に支障をきたさず、これまでどおりの生活ができることや景観を大きく損ねないなどの利点がある水門式が望ましいということになり、細浦六地域協議会としては、水門式を細浦地区の総意であるとして、県に水門式の要望書を提出した。その後、その水門式より費用も削減でき、船舶の入出港においても、景観においても現在の状態に近いとする起伏フラップゲート式が紹介され、細浦六地域協議会としては、それが津波襲来時確実に阻止してくれるものであれば、より望ましいとしていた。

なお、県は、７月10日には大船渡市漁業協同組合末崎支所において、漁業関係者に同様の説明会を開催した。そこでは、津波襲来が予想される場合、沖合いに船を出して難を逃れたいことから、いつでも船が出せるようにするため湾口防潮堤には反対の声があったが、県としては、住民の生命財産を守る義務がある。大船渡湾全体の防潮堤の高さも7.5ｍと決めている。細浦湾だけ何も造らないというのは、行政としてはできない。そのことも理解していただきたいとしている。

小細浦湾については、湾奥の方に水門を含む防潮堤を造る。このことについては、すでに小細浦地域の住民に事業計画を説明し承諾いただいていることから本年６月に、防潮堤用地買収対象者、海産物加工会社、漁港利用者、製造業者へ詳細設計の説明を行って了承得ているとのことでした。

平成27年度地縁団体末崎町公益会通常総会報告

総会資料は、すでに会員の皆様に配布しておりますが、概要は左記のとおりです。

記

開催日時：6月28日（日）午後2時～
場　所：末崎ふるさとセンター
出席者：１５１０名(うち委任状１４５８名)
議案第一号　平成26年度事業報告及び収入支出決算
第二号　平成27年度事業計画及び収入支出予算
第三号　平林地内(中学校向かい)駐車場路面整備
第四号　公益会所有土地(通岡賃貸土地)の買い取り希望

以上の議案については、いずれも承認されましたが、報告・意見等の概要は次のとおりです。

(議案第一・二号)
・26年度事業として、末崎老人クラブへ「テント2張り助成」「ミニバス出場への助成」などがなされた。
・事業計画のうち、「末崎の郷土誌」の増刷配布、碁石顕彰碑説明板の設置等は都合により、27年度事業として継続実施することとなった。

(議案第三号)
・平林地内駐車場整備については、中学校生徒の送迎などで多くの町民が利用しており、「安全を図るため、舗装までやってほしい」「実施に当たって、設計、積算(見積)等精査」について意見が出され、そのようにすることとした。

(議案第四号)
・「具体的な面積・価格」等質問ありましたが、本議案は、賃借人所有の建物と同時に土地を売ってほしいとの事案が具体化した場合の取扱いであり、採決の結果、原案のとおり、「売却可とし、取扱いは理事会に一任」で承認されました。

☆デジタル公民館まっさき活動

◇ふれあいキッズデー in 居場所ハウス
～夏休み親子・祖父母ものづくり教室～

竹を材料としたかぶと虫・くわがた虫、使用済み牛乳パックを利用したとまりとんぼ、手芸品などを子どもを主役にみんなでつくります。

日時　8月9日(日)13時～15時
場所・問合せ先　居場所ハウス 47－4149
参加費　無料

◇5月活動報告

5月30日(土)・31日(日)に実施した5月活動の志田仁さん(碁石地区在住)と滝田松男さん(平林仮設在住)のまちおもいトークなどを「デジタル公民館まっさき」で公開していますのでご覧ください。アドレスは館報最下部に示すとおりです。

☆寒水舞踊交流公演

子どもから大人まで総勢40人が、今年も東京から来訪します。バラエティに富んだダンスをお楽しみください。

日時　8月7日(金)10時30分～
場所　ふるさとセンター体育室